

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 20日

事業所名 しあわせ駅 銘苅

		チェック項目	はい	いいえ	工夫してる点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		用途(玩具・運動・午睡・制作等)によって、部屋を使い分けているが、子どもたちの状況によって使い方が異なることがあるため、観察を行い、必要に応じて改善・工夫していきたいと思う。
	2	職員の配置数は適切である	○		頻繁に見る機会がないため、わかりませんという意見をいただいた。管理者兼児童指導員、児童発達管理責任者、児童指導員、指導員と人員配置は適切ではあるが、送迎時のお迎え時間が重なったり、個別の対応が必要な場合には、もう少し人員が必要だと感じている。現時点では、その場合は職員間でより連携を図れるように心がけている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリー対応を必要とする児童は現時点ではないので、バリアフリー化に対応していないが、安全に過ごせるように死角を作らない工夫はその都度努めている。またお子様に伝えたい情報は、絵と文字を組み合わせた視覚支援を取り入れながら声かけしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動に合わせて部屋を使い分けている。片づけに関しては、子どもたちが収納しやすいように棚に絵カードを貼って表示しており、引き続きお子様がわかりやすく楽しく活動ができるよう声かけや環境の工夫をしていきたい。活動終了後に各部屋の掃き掃除や拭き掃除、トイレの清掃は毎日行い、玩具のふき取りや洗濯、送迎車の洗車等は定期的に行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善のためのミーティングを随時行っているが、今後さらに明確な事業所の目標設定と振り返りを強化していきたいと思う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		把握には努めているが、改善までは至っていない部分もある。今後、保護者様の意見をより引き出せる工夫や職員間の研修を強化していきたいと思う。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。年に一度、保護者アンケートを実施し、頂いた意見を参考にしながら業務改善に繋げるよう努めている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	今後、連携対応を図っていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内・外部研修になるべく参加できるように心がけている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者様や本人の様子をみながら思いを取り入れ、無理のないようにスモールステップで成長につながるような療育を心がけている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		もっとツール(絵カード・映像・適した講師等)を活用していきたいと思う。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインで示されている支援内容を踏まえたうえで支援計画を立てているが、ガイドラインの読み合わせを定期的に行えるように努め、より一層支援内容の工夫をしていきたいと思う。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		定期的に行われるモニタリングや日ごろの振り返りなどで、計画に沿った支援が行われているか確認しているが、記録をもっと有効に活用しながら、再確認する機会を増やす必要がある。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童の成長に即したプログラム内容になるように、全職員の意見を参考にするようにしている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童が何を求めているのかを把握し、状況に応じて、活動や行事を取り入れるよう今後も工夫していきたいと思う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫してる点・ 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		個別支援計画書を基本に行っているが、児童ひとり一人の状況や特性に応じて、個別対応や小集団での取り組みを努めている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングで申し送りノートを活用しながら、一日の活動の流れや集団活動または個別での対応が必要な児童への配慮などを職員全員で確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後には時間が作れない場合が多いため、緊急事例などを除いては、翌日の朝に支援の振り返りや見直し等を共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		活動記録は毎日行っているが、個別支援計画書に沿って記録できるよう、定期的に個別支援計画書の再確認をしていくように努めていきたいと思う。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングは定期的に行い、個別支援計画書の振り返り見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		個別支援計画書を立てる児童発達支援管理責任者を主体に参加。 状況によって児童指導員も一緒に参加し、児童の状況把握に努めている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、関係機関(保育所・こども園、相談支援事業所、他事業所等)と連携を図っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		よりよい活動ができるように、保護者様の許可を得た上で必要に応じて関係機関との情報共有を行い、相互理解を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様と相談支援事業所を通して、保育所やこども園等と情報共有を行うこともある。 その場合は、移行支援として小学校との相互理解を深めれるよう努めている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		参加できる時は研修に参加し、助言を参考に職員間で情報共有を行いながら、事業所内で行える支援に取り組んでいる。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		児童の状況をみながら、公園やイベント行事等への活動を通して、関わりをもつ機会を作っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	協議会との連携を図り、参加の頻度を今後増やしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に児童の様子を保護者様へお伝えするようにしているが、タイミングが合わない場合もあるため、連絡帳や電話でお伝えするようにしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	保護者様の家庭支援プログラムに関して、まだ整った支援が出来ていないのが現状。 支援内容の段取りなどを職員間で話し合い、家庭内での支援方法についてのサポートが行えるように努めていきたいと思う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っている。 保護者様よりさらに説明を求められた場合も、随時対応していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者様またはお子様からの要望をもとに、児童発達支援管理責任者が個別支援計画書を作成・説明を行い、同意を得て療育を進めている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫してる点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や定期的に行われる関係者会議、モニタリング等はお子様や保護者様の様子を聞くことができる場だと思っている。保護者様が気になっていることや不安に思っていることを気づかせていただき、支援方法についての見直しに繋がったり、またお子様の好きなことや良い点の再確認して、一緒に支援内容を作っていくことが出来ればと思う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	現状として保護者会を開催していないが、保護者の皆様に参加できる行事などの機会を増やしていけるように工夫していきたいと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れがあった場合は、職員間で話し合い体制を整備するよう努めている。状況に応じてその都度、文書または口頭で保護者やお子様に周知しているが、より一層迅速かつ適切に対応するよう努めていかなければいけないと思う。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のお便りを通して、月ごとの予定や活動内容をお伝えし、臨時な連絡等に関しては文書を出して発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報外部に漏れないよう、今後も書類や写真の管理、公開には十分注意していく。個人情報が記載されている書類にはキャビネットに保管し、活動の様子をお伝えする写真には個人が特定されないように修正した上で掲載している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		お子様においては、必要に応じてジェスチャーや絵カード、個別で話を行い、保護者様とは送迎時の申し送りやおたより帳を通して意思疎通・情報伝達を図っている。今後もより意思疎通を図れるように工夫に努めていきたいと思う。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	ハロウィンでの地域交流、同系列の他事業所との合同行事などを行っていますが、実施日が土曜日に偏ってしまうことが多い。平日のみご利用されるお子様には行事を分散したり、増やしたりして参加できるような企画を今後も工夫していきたいと思う。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは策定しているが、職員への周知の強化は勿論のこと、保護者様にも説明を徹底していきたいと思う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的な避難訓練を9月と3月に実施し、活動状況や児童の体調に合わせて行っているが、今後は保護者の方へどういった取り組みを行っているか情報を提示していけるよう努めていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事業所内での服薬(処方箋に限る)においては、事前に服薬書を記載し、事業所に提出して頂いたうえで行うことが原則になっている。ご家庭での服薬や予防接種、てんかん発作等の児童については、おたより帳や口頭などで連絡を受けながら確認をしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		引き続きアレルギー対応について認識を深めていくとともに、現在利用している児童のアレルギーの有無を確認し、必要な対策について全職員で情報共有を行っている。また医師の指示書がある場合は、その内容に従って対応できるように周知徹底していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		職員全員で情報共有し、その都度対策を講じるように心がけているが、事例集の作成を習慣化できるように努めていきたい。日頃から整理整頓、清掃に力を入れ、危険な箇所がないかチェックしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		引き続き積極的に虐待防止に関する研修等に参加し、全職員が意識して支援にあたるように徹底していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		現在、身体拘束は行われていないため、支援計画書に記載することもない。やむを得ず、身体拘束が必要と判断されるまでは、身体拘束を行わないことを念頭に置いて支援に関わりたいたいと思っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。